

平成30年度 県立総和工業高等学校自己評価表

No. 1

目指す 学校像	教育活動全体を通して、人間性の涵養と生きる力を身に付けさせ、心身ともに健康で豊かな人間性を備えた生徒の育成を図り、ものづくり教育を基軸とした教育活動を通して、社会の形成者として必要な資質・能力の育成を期す。		
昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況
・ものづくり教育を中心とした教育活動を通し、生徒自身が身に付けた技術や能力を地元開催のイベントや地元小学校と連携した出前授業で発揮することにより、生徒の社会性の向上がみられた。さらに地域社会との連携を深め、生徒が活躍できる機会を増加させていく。 ・基礎学力不足や学習への取り組み姿勢に問題を抱えている生徒一人一人に対して、教科毎に適切な学習指導を実施することにより、学力の向上を目指した。さらに生徒の興味関心が高まる授業改善に努め、学習に対する意欲を向上させる。 ・地元小学校での挨拶運動に参加するなど、積極的に地域で活動する生徒が増加しているが、規範意識の低い生徒や基本的生活習慣が身についていない生徒がみられる。問題行動の未然防止や早期発見に努めると共に、交通安全教育とマナーアップをさらに充実させる。 ・平成29年度の進路状況は就職が75%をしめ内定率は100%であった。大学進学者は14%となり前年度より増加がみられた。引き続きキャリア教育を充実させ、進路意識の育成を図ることにより進路決定率100%を継続する。 ・資格指導の校内体制を整え、講習会の充実や外部講師を招いた実技講習会を実施したことで、資格取得に取り組んだ生徒の増加がみられた。 ・部活動加入率が52%程度に留まっている。積極的に部活動紹介を実施し加入率を高めることにより、部活動の活性化を図る。	学習意欲を高める授業・実習の工夫改善	①授業規律の確立と基礎的・基本的な内容を重視し、確かな学力の定着を図る。 ②観点別評価を活かした学習活動に努め、授業・実習の工夫改善を図る。 ③ものづくり教育を推進させ、専門的な知識や技術の習得と、資格取得につなげる。	B
	道徳教育の推進と基本的生活習慣の確立	④規範意識の高揚を図り、基本的生活習慣を身につけさせる。 ⑤道徳教育やいじめ防止対策推進体制を確立し問題行動等の未然防止に努める。 ⑥ルールやマナーの向上を図り交通事故防止に努める。	C
	健康や体力を育み学校全体の活性化	⑦部活動やホームルーム活動等を充実させ、生徒の主体性を育む。 ⑧学校行事等を通して、生徒の自主性・自律心を育成し、学校全体の活性化を図る。 ⑨特別活動の充実を図り、体験的活動を通して自発的・自治的な態度の育成に努める。	B
	社会の変化に対応した生きる力の育成	⑩キャリア教育を推進し、勤労観・職業観の育成を図り、進路希望の実現を目指す。 ⑪企業体験学習や進学支援を充実させ、主体的に進路選択ができるようにする。 ⑫校内環境の美化に努め、よりよい生活環境の創造のための実践的な態度を育成する。	B
	P T A活動の活性化と地域社会との連携	⑬P T A活動の活性化のため、保護者との連携と行事の工夫改善を推進する。 ⑭地域イベントやボランティア等に積極的に参加し、本校の特色をアピールする。 ⑮防災力推進の観点から、ものづくりを活かし地域社会との連携を推進する。	B

評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
教務部	授業時間の確保と確かな学力の定着を図る。	授業交換を積極的に行い、授業実施時間の量的確保の啓発や授業時間遵守を推進する。	①	A	生徒の家庭を含めた学習習慣の定着を図る。 学校全体で授業改善の推進に取り組む。
		定期考査の適正な運営を図る。	①②④	A	
		シラバスの内容に従い観点別評価を生かし、充実した授業となるよう工夫改善を図る。	①②	B	
		生徒が主体的に学べる環境を積極的に構築する。	②③⑩⑭	B	
	本校P R活動の活性化を図る。	学校全体で実習公開・学校開放・体験教室等の事業に取り組み充実を図る。	⑧⑭	B	
		学校案内、説明資料等の改善を図り学校P Rに努める。	⑭	B	
	学習習慣の確立と基礎学力の向上を図る。	学力向上推進総合事業の中心的役割を果たすため企画立案を積極的に行う。	③⑩⑪⑭	B	
		定期考査や基礎学力テスト等の全段で学習を推進する機会を積極的に取り入れる。	①	B	
		保護者の協力を得るために、定期考査等の実施について周知する。	④	B	
	円滑な教育活動の推進を図る。	各校務分掌や学年、教科、委員会との連携を深め、学校行事が円滑に実施されるよう努める。	⑧	B	
管情理報	ホームページの充実を図る。	学校ホームページの更新を適時行い、ホームページによる情報発信を充実させる。	⑭	B	新校務支援システムへの移行及びサービス期間を終了するWindowsに対応する。
	学習のICT化を推進する。	学力向上推進事業と連携した、使いやすいICT環境を構築する。	①	A	
	校内ネットワーク環境の向上を図る。	ウィルス対応ソフトの更新やインターネットフィルタリングを適切に設定し、コンピュータを利用する授業が安全に行える校内ネットワーク環境を整える。	①④	B	
進路指導部	進路意識の向上を図る。	定期的に進路ガイダンスを導入し希望進路の実現を促す。	⑪	B	希望進路の実現に向け進路活動を活発にする。 就職試験対策のため学力の向上対策を図る。 各種資格取得の推進を図り進路活動に役立てる。
		定期的に進路だよりを発行する。	⑪	B	
		各種適性検査を導入し、客観的に自己を認識させ進路選択に役立たせる。	①⑪	A	
		「高大連携事業」の出前授業やオープンキャンパスへの参加を促し進学を実現させる。	①⑪⑭	A	
		工場見学、インターンシップにて職業観・勤労観を育成する。	①⑪⑭	A	
	進路達成の充実を図る。	情報の提供に努める。閲覧室を有効的に活用する。	⑪⑫	B	
		面接指導の充実を図る。	⑪	B	
		書類作成についての留意点を周知徹底する。	⑪	A	
生徒指導部	学生生活の根本である「授業規律」を確立することにより、自己の規範意識、基本的生活習慣や社会のルールを見直すことができる生徒を育成する。	希望進学先・希望就職先についての研究を徹底させる。	①⑪	B	生徒の実態に則して、内規の見直しを検討する。 授業中の態度に対する特別指導の規定を検討する。 いじめ等対応に関する職員研修を計画する。 地域住民の苦情等について、地域と連携を図り対策を検討する。
		朝の立哨指導、昼休みの校内巡視および毎月の頭髪服装検査等を、全職員共通理解のもとで実施する。また、問題行動の未然防止や早期発見・早期対応に努める。	④⑤⑥	C	
		道徳の授業や他の関係分掌との連携行事により、道徳的な態度や考え方を育み、社会の一員として自覚のある心身を育成する。	④⑤⑩	C	
		各学期毎のマナーアップ週間、毎週水曜日、生徒会によるあいさつ運動、マナーアップキャンペーン参加等をとおして、マナーの向上や地域の貢献に努める。	④	B	
		毎月の生徒情報交換会をとおして、生徒に関する情報を共有し、保護者との密な連携を取りながら、いじめ問題、問題行動等の未然防止に努める。	⑤⑥	C	
		携帯電話やインターネットの安全利用について、生徒、保護者の意識を高めるための講演会や安全教育を推進する。	④⑤	B	
	交通安全教育の充実とともに、交通マナーの向上、交通事故の未然防止を図る。	交通安全教室を各学年毎に実施し、危険察知力を養い、交通ルールの遵守と交通事故の減少に努める。	④⑥	B	
		各学期毎の自転車、バイク点検およびマナーアップ週間等の登下校指導により、交通安全意識の高揚を図る。	④⑥	B	
	教育相談体制の充実と職員間の連携を図る。	教育相談体制の整備や教職員の研修会を推進し、生徒の様々な悩みを受け止め、指導できる体制を確立する。また、発達障害等に関する職員研修を実施する。	④⑤	B	

特別活動部	生徒会活動・学校行事等の活性化を図る。	生徒会役員が中心となり、各クラス・各専門委員会と連携をとりながら、より良い学校生活をおくられるように工夫・改善をし、学校行事等を実施する。	⑧⑨	B	B	文化祭をより発展させる。野球応援の活性化を図る。部活動の活性化を図る。
	部活動の活性化を図る。	積極的に部活動紹介を行い、各部活動の取り組み等の強化を図り、企業のニーズに答えられるように指導をし、部活動加入率の向上に努める。	⑦⑧	C		
	各生徒会専門委員会の活動の向上を図る。	各専門委員会の年間活動を検討し、生徒会とも連携をとりながら活動を充実するように努める。	⑨⑫	B		
	体験学習・ボランティア活動の推進を図る。	生徒会が中心となり、魅力ある学校作りやボランティア活動ができるように、生徒の意識の向上に努め、活動を充実するように努める。	⑨⑭	B		
	HR活動の向上を図る。	より良いHR活動ができるように年間計画を立て、活動を充実するように努める。	④⑥⑦	C		
聴図書部視	図書室の整備、図書室活用の活性化を図る。	図書室利用の円滑化並びに図書委員会活動の活性化を図る。	⑦⑧	B	B	年間の計画を改善し、利用者や貸出数を増やす。
	視聴覚環境の改善を図る。	「図書だより」の刊行により図書委員の質の向上を図る。	①⑧	B		
		視聴覚室利用の円滑化管理、運用を図る。	⑦⑧	B		
		什器を更新し、視聴覚室の利用環境の向上を図る。	⑧⑫	B		
保健厚生部	心身の健康指導に努め、規則正しい生活習慣の向上を図る。	健康診断を通して、生徒の健康管理に努める。	④	A	B	環境検査の結果をふまえ、教室などの学習環境を整える。
	学習施設環境の向上を図る。	感染症の予防に努めながら、生徒の基本的生活習慣を促す。	④	B		
		学校敷地内の整備と清掃・美化に努めながら生徒が日々の生活の中で公共心を養うように努める。	⑫	C		
		エアコン、扇風機、ストーブなどの安全使用管理に努める。	⑫	B		
渉外部	防災教育の充実を図る。	防災避難訓練を通し、防災意識を高め、よりよい生活環境をつくる。	⑮	B	B	総会およびPTA行事の参加率向上を図る。
	PTA行事の参加率向上を図る。	P T A総会、支部別P T A等の内容検討。参加教員の意識向上を図る。	⑬	B		
	PTA研修会を充実させる。	各支部の協力の下、早めに具体的な実施内容を決定する。	⑬	B		
第1学年	ホームページの活用を図る。	保護者への連絡を徹底するための情報伝達システムの構築を検討する。	⑬	C	B	授業態度、服装、遅刻をなくすなど基本的生活習慣の確立を徹底させ、落着いて学校生活を送れるような指導を、学年で共通理解の上徹底する。
	基本的生活習慣を確立し、社会への適応力を身につけさせる。	保護者との連絡を密にし、身なりや出席状況について定期的に指導を行う。	④⑥	B		
		授業担当者や連携し、授業に主体的に参加する態度を育成する。	①	B		
		学校行事や道徳の授業等を通して、挨拶の励行、人や社会との関わりについての考察など、在り方生き方の自覚を深めさせる。	⑤	A		
	将来を見ずえて、計画的で意欲的な生活を送らせる。	HRや学年集会を通して、部活動加入や資格取得への取り組みを促す。	⑦⑧	B		
		家庭学習・自主学習を習慣づけさせ、基礎学力の向上を図る。	①	C		
第2学年	基本的生活習慣の確立を図る。	進路指導部と連携して行事を行うことで、早期から進路意識の向上を図る。	⑩	A	B	生徒、職員、保護者の連携を図り、一人一人に応じた進路指導を目指す。卒業後を念頭にいれ基礎となる日々の生活指導・学習指導のいっそうの充実を図る。
	成績不振者に対する指導を充実させる。	服装髪型や出席状況について指導し、家庭と連携しながらマナーアップに努める。	④⑥	B		
	進路意識の向上を図る。	授業担当者や連携し、授業に主体的に参加する態度を育成する。	④	B		
		情報交換の場を多く設け、学年・教科・家庭での共通理解に努める。	①⑬	B		
		日々の授業の中で努力をさせ、必要に応じて課題や補講を行う。	①②	B		
第3学年	交通安全指導を徹底する。	進路指導部との連携を密にして、進路ガイダンスや適性検査の充実を図る。	⑩⑪	B	B	人間性の涵養を図ることを第一に教育活動をする必要がある。
	進路指導の充実を図る。	将来の進路について関心を持たせ、インターンシップへの積極的な参加を促す。	⑩⑪	A		
		生徒指導部と連携をして交通安全指導を充実させる。	④⑥	B		
		自己の進路目標を早期決定できるようにアドバイスする。	⑩⑪	B		
		進路集会や各種適性検査を有効活用し、併せて面接指導の充実を図る。	⑩⑪	B		
	基礎学力の向上に努める。	進路目標に向け、自ら学習に取り組む姿勢を育てる。	②③	B		
第3学年		ホームルームを有効に活用し、社会人として必要な基礎学力の向上を図る。	①	C	B	
	人間性の育成を図る。	規範意識の高揚を図り、社会人となる自覚・責任を持たせる指導の充実を図る。	④⑥	C		
		学校行事や校外活動への積極的参加を促す。	⑧⑨⑭	B		

械 科	基礎・基本の徹底。特に技術力の向上を目指す。	「実習」を通して、基礎・基本をしっかり身につけさせる。また、ものづくりの面白さを体験させ、企業が必要とする工業についての確かな技術を有する人材を育成する。	①③⑩	B	B	検定試験の合格率アップと地域との連携を更に図る。
	勤労観・職業観の育成を図る。	企業の求める人材を育成するため、インターンシップに参加させる。	⑩⑪	B		
		「課題研究」を通して、学習への成就感・達成感を体得させる。また、発表会を行いプレゼンテーション能力の向上を図る。	②③⑧	B		
	資格取得指導の充実を図る。	補習の実施、指導法を工夫して合格率向上を図る。	①②③	C		
		資格取得を積極的に推進し、生徒の進路実現に向けた支援を行う。	⑩⑪	B		
	地域との連携を強化する。	地域イベントに積極的に参加し、本校をPRするとともに参加生徒の積極性や社会性を育成する。	②⑭	B		
		出前授業を計画し、地域との連携を図る。	⑨⑭	C		
電 子 機 械	安全教育の徹底を図る。	実習をとおして、3S（整理、整頓、躰）を自覚させる。	④⑫	B	B	電気科との乗り入れを発展させ新しい学科づくりを加速させる。
	ものづくり教育の充実を図る。	実習内容（計測実習、製作実習、パソコン実習、溶接実習）の工夫改善を図る。	①②③	B		
		地元の企業と連携を図りながら企業実習を実施する。	③⑪	B		
	資格取得を推進する。	専門教科と連携を図り、各種資格試験の合格率の向上を図る。	②③	B		
		3冠資格（2種電気、旋盤3級技能検定、電子機器組立3級）取得者を顕彰し、資格取得の推進。	③⑪	B		
	地域社会との連携を図る。	地域のイベントに積極的に参加し、本校のPRに努める。	⑭	B		
		交通安全グッズの製作を行い、地元の警察署と連携し地域の交通安全の意識を高揚する。	⑭	B		
電 気	資格取得指導の充実を図る。	生徒一人一人の個性に合わせた指導を行い、自ら希望した資格取得に向けた指導を充実させ、資格取得に対する意欲の高揚を図る。	①②③	B	C	取得可能な資格の幅を広げ、個性を生かした指導を行う。 小・中学校と連携を深め、出前事業等を積極的に行う。 企業見学等を教科研修として生かし、今後の学習活動に役立てる。
	専門教科指導の充実を図る。	各専門教科を通して、「ものづくり」の基本を学び、楽しさを体験できるように適切な教材の作成に努める。	③	C		
		課題研究発表等での、プレゼンテーション能力を高めさせるよう指導に努める。	③	C		
	地域との連携を強化する。	各関係機関と連携を図り、積極的に「ものづくり」へ参加し、地域に工業高校をPRする。	⑭	B		
	基本的生活習慣の確立を図る。	実習においての少人数授業を活用し、生徒との関わりを通して、実社会において必要な安全教育の指導をする。	④	C		
国 語	読む力をつける。	音読を行う。	①	B	B	社会生活で必要な一般常識としての国語の知識や聞く力を身に付けさせる。
		文章から必要な情報を抽出し、正しく理解するように読み取る。	①	B		
		各ジャンルの作品の特長を正しく理解し、必要に応じた読解力を養う。	①	B		
		語彙を増やすために、積極的に意味調べを行う。	①	B		
	書く力をつける。	読みやすい字を書くように努め、必要な情報を正しくノートに執る。	①	B		
		漢字語彙力を増やす。	①	B		
	話す力をつける。	正しい言葉遣いで発表する。	①	B		
		必要に応じて相談、質問が適宜出来るように努める。	①②	B		
地 歴 ・ 公 民	基本的な事項・事柄を精選した授業を展開し、社会に関する基礎的な知識を身につけさせる。	具体的事例や時事問題を取り上げるなど、生徒が理解しやすい授業の展開・工夫に努める。	①	B	B	生徒が社会との関わりが深くなっていくなかで必要となる資質を、教科指導を通して身に付けさせる。
		課題やプリントを作成し、生徒が意欲的に授業に参加できる環境を整えるとともに、提出させることで学習達成状況の確認に努める。	①②	B		
		成績不振者に対する、補習授業や課題学習に積極的に取り組む。	①②	C		
	社会的事象及び歴史的事象に対する関心を高める。	作業的学習を積極的に取り入れる。	①②	A		
		視聴覚教材の積極的な活用を図る。	①	A		
数 学	基礎計算力を高める。	計算過程の復習を繰り返し、基礎計算の定着を図る。	①	D	C	進学者対象課外の質の向上を図る。 必要に応じて適宜計算の反復練習をする。
		課外授業や補習授業を行い、個別指導の充実を図る。	①②	B		
	数学的思考力を養う。	プリントによる問題演習や小テストを実施し、生徒が自ら取り組める環境を充実させる。	①②	C		
		生徒が数学検定を受けられる環境を作り、生徒の学習活動を促す。	②③	A		

理科	理科への興味関心を高める。	身近な話題や工業科目との関連を意識した題材を取り上げ、理科への興味・関心を高める。	①	B	B	危険物取扱者乙4種の資格指導において、工業科との連携の充実や課外期間の延長、方式の改善などを行うことにより、合格者数の増加を図る。
	学習に向かう姿勢を育成し、基礎的学力、基本的知識の確実な定着を図る。	授業態度や課題提出の指導を強化し、授業に臨む意識や態度の向上を図る。	①②	B		
		「科学と人間生活」においては、科学的な一般常識の修得に重きをおいた授業を展開する。	①	B		
		小・中学校レベルの内容に戻りながら、基本的な法則や公式の確実な修得に重きをおいた授業を展開する。	①	B		
	科学的思考力を養成する。	実験・観察や問題演習を通して、科学的に考える力や知識を活用する力を養わせる。	①	B		
	生徒の能力に応じた指導を行う。	成績不振の生徒には補習を定期的に行う。	②	B		
保健体育		工業科と連携し、工業系資格の合格者数の増加を目指す。	③	C	B	体力向上推進プランにもとづき、体力の向上を図る。服装指導に関しては、生徒へのアプローチ方法を変更し、次年度は、全生徒に周知徹底していきたい。
	服装指導を徹底する。	授業開始時、服装の乱れを指摘しチェックを行い、規範意識の高揚を図る。	④	D		
	運動技能と体力の向上を図る。	自己の能力に応じた運動の課題に対し、適切な指導・アドバイスを行う	②	C		
		各種競技に関連する運動を積極的に授業に取り入れ、生徒の体力レベルを県平均まで引き上げる。	①②	B		
	あいさつ指導を徹底する。	教員側から正しいあいさつを示し、あいさつ指導の充実を図る。	④	A		
		始業時、終業時の整列を徹底する。	①④	A		
書道	自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。	的確な思考・判断に基づいて適切な意志決定を行い行動選択ができるよう、保健の授業を通じさまざまな知識や情報を伝達し、理解を深めさせる。	①	B	C	個に応じた指導を更に深めたい。授業対する意欲の向上が課題である。
	書の基本技術及び書写能力の向上を図る。	個々に応じた指導を積極的に行い、表現力や全体の構成力を養う。	①②	C		
		書への関心・感性を高め、書の伝統と文化についての理解を深める。	①②	C		
英語	基礎学力の向上を図る。	授業取り組みに対する意識の向上に努め、個に応じた指導に努める。	①②	C	B	英語の基礎知識を身につけることが必要でその上で基本的な4技能を活用する場面を工夫する。工業リスニング英語検定への取り組みの強化。
		基礎的・基本的な文法事項を丁寧に説明し、確かな学力の定着を図る。	①	B		
	授業内容の定着を図る。	プリント学習を通して問題演習を行い、授業における内容理解の定着に努める。	①	B		
		視聴覚教材を利用し、授業内容に対する興味・関心を高める。	①	B		
	英語活用能力を養う。	生徒が4技能を活用する場面を設定し、総合的な英語運用能力を養う。	①②	C		
家庭		工業リスニング英語検定のための対策を講じ、合格率の向上を図る。	①③	B	A	消費者教育や食育等、新しい家庭科の内容が入ってくる。したがって、益々、今後、主体的・対話的・ふかい学びの手法が必要になり、課題となると思われる。
	家族・家庭に関する知識と技術の習得を図り持続可能な社会の担い手として能力を育てる。	基礎的・基本的知識の定着と加速度的に変化する社会の情報を取り入れる能力を養う。	①	A		
		被服実習・調理実習について基礎から指導し、技術の定着を図るとともに、ワークライフバランスについて一緒に考え、持続可能な社会の担い手になれるよう指導する。	①②	A		
	自己管理能力の向上を図る。	食育の観点から、高校生として望ましい身体づくりに必要なことは何か考えられるよう指導する。	①④	A		
	わかりやすい授業の工夫に努める。	簡単な実験や作業を取り入れて、興味を引き出す。	①②	A		
		ICT教材を活用し、生徒が関心を持つ授業の工夫に努める。	①②	B		

※評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない